

平成30年度入学試験問題

小論文（編入学）

（国際地域学科地域教育専攻）

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題紙を開かないこと。
- 2 「問題」は1～3ページです。
- 3 解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚あります。
- 4 解答は指定された解答用紙に記入すること。
- 5 受験番号は解答用紙の指定欄に記入すること。
- 6 解答は横書きとし、指定された字数にまとめること。
- 7 解答用紙のみを提出し、問題紙・下書き用紙は試験終了後、持ち帰ること。なお、いかなる理由があっても解答用紙以外（下書き用紙など）は受理しません。
- 8 試験中に問題紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

問題 次の文章を読んで、後の設問1, 設問2に答えなさい。

現在の世代と未来の間には、資源や環境にかんして利害関係があるが対話ができない。現在の世代が未来の世代に「緑の地球を残す」責任を負うのは、バトンタッチ型の相互性であり、これが完全義務のより所となる。自由主義の背景となった、相互性は完全義務、一方性は不完全義務という基本枠には一致しない。

現在の世代が未来の世代の生存のために、環境と資源の保護という義務を負うとしよう。現在の地球人と未来の地球人との間には、相互的な関係はない。未来の世代は否応なしに、劣化した環境と資源をバトンタッチされる。未来世代はどんなにひどい仕打ちを現在世代から受けても、文句も言えない。しかし、環境と資源を守ることは、是が非でもやらなければならないオブリガトリーな完全義務であり、メリトリアスな不完全義務ではない。しかし、現在世代と未来世代は、保護者と保護される者、経済援助を与える国と受ける国という関係でもない。

どんな倫理システムも、一方的なエゴイズムを制限するという狙いがある。他者危害原理が必要となるにも、二つの意味がある。ある限度内のエゴイズムを許容することと、その限度を超えたエゴイズムを排除することである。加害者と被害者の間のバランスの回復を図るために、犯罪を行なった加害者を刑罰の被害者にする。

未来の世代を被害者とするような犯罪は、現在のわれわれの文化の使っている倫理システムではチェックできない。なぜ、エゴイズムの通り抜ける、そのような大きな穴ができてしまっているのだろう。その穴のできた理由は、近代化というシステム転換のなかにある。

封建的なシステムでは、世代間のバトンタッチという形で倫理が出来上がっている。古い世代は新しい世代にあらゆる仕事を押しつける。たとえば結婚は当人の幸福のためにするものではなくて、家という世代間の連続を支えるために行なわれる。古い世代は未来世代の利益を代弁してもいる。

人類は、近代化によって、「過去の世代にはもう遠慮はしませんよ」という文化を作り上げた。近代社会では、あらゆる有効な合意が同じ世代間の関係で成り立つ。約束、契約、投票、訴訟、立法というような人間相互の間の拘束力を生み出すような有効な決定は、共時的な構造をもつようになった。

それが実は、共時的なシステムは「未来の世代にも責任を負いません」という反面を含

んでいる。共時的相互性の倫理には、現在の世代の未来の世代に対するエゴイズムをチェックするシステムが内蔵されていない。つまり封建倫理は単に古い世代の支配だというのは、近代主義者の偏見であって、封建倫理は未来世代のための倫理でもあったのだ。「家」という観念には、未来世代の繁栄を願う気持ちが含まれていた。

(中略)

現在の世代は未来の世代に責任がある。しかし、この二つの世代には、対話とか合意とかの可能性すらもない。すると問題は、本当に世代間倫理は成立するのかどうかということである。現在の世代が未来の世代に義務とか責任をもっていると、どうして確認できるのか。どうしてまだ存在しない人との間に、約束とか契約とかの関係を取り結ぶことができるのか。その関係は、もしも成り立つとしても、双務的、相互的なものでない一方的な責務に拘束力がどうして成り立つか。

まず、現在の世代と未来の世代との間に利害関係が存在することを確認しなければならない。そこには配分と引き継ぎという基本的な関係がある。

①生物種を含めて地球上の資源が有限である以上、現在の世代が資源を消費すれば、未来の世代は同じ資源を消費できなくなる。すなわち現在の世代と未来の世代の間には資源の配分という関係が存在する。ここでは現在の世代と未来の世代とは基本的に利害が対立する。

②資源、環境、技術的なノウハウを含む文化（伝統）を、未来の世代は現在の世代から引き継ぐ。あらゆる世代が引き継ぎの連鎖の中にある。バトンを受け取るものは、やがてはバトンを渡すものとなる。ここでも現在の世代と未来の世代の利害が基本的に一致するとは限らない。放射性廃棄物、有害化学薬品などの負の遺産を未来の世代に残す結果になることがあるからである。

現在世代と未来世代の間には、きびしい利害関係が存在するのに、対話とその利害関係を調整する倫理的なシステムがない。

(加藤尚武『現代倫理学入門』講談社(1997)より抜粋、一部改変。)

(注)

※「オブリガトリーな完全義務」と「メリトリアスな不完全義務」

前者は、それを遂行することが強要される義務であり、それゆえに、もしそれを行わなかった場合には非難されるような義務のことである。それに対して、後者は、誰もそ

れを遂行することを強制されない義務であり、それゆえに、もしそれを行った場合には称賛されるような義務のことである。

たとえば、「他人の自由や財産を侵害しないこと」は前者の例であり、「他人の幸福を可能な限り促進すること」「自分に責任のないけが人を救うこと」は後者の例である。

設問1 著者は「なぜ、エゴイズムの通り抜ける、そのような大きな穴ができてしまっているのだろう。その穴のできた理由は、近代化というシステム転換のなかにある。」と言っている。著者は、どのようなシステムに転換したから「未来の世代を被害者とするような犯罪」をチェックできないと考えているのか、100字以上200字以内で説明しなさい。

(30点)

設問2 著者は「現在の世代が未来の世代に『緑の地球を残す』責任を負う」のは「完全義務」であると言う。なぜ、このことが「完全義務」になるのか、「共時的相互性」の考え方と対比しながら、400字以上600字以内で説明しなさい。

(70点)